



## 霧島山・新燃岳が噴火

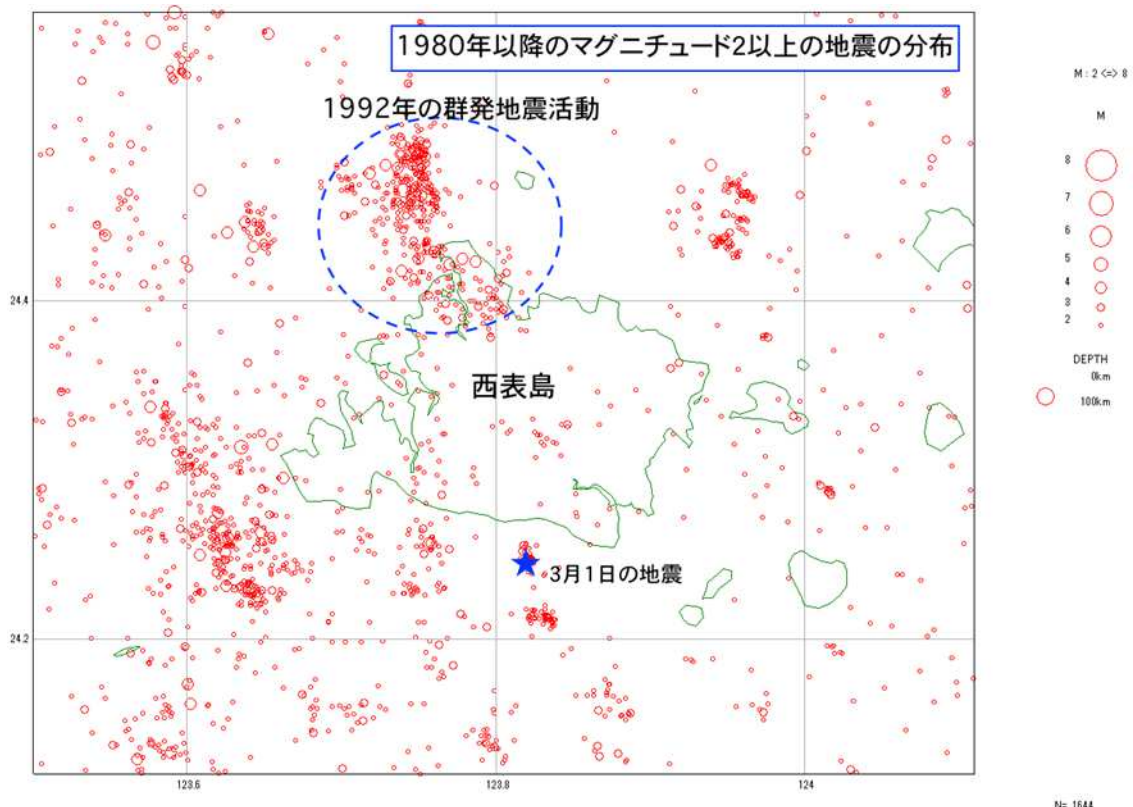
先週活動活発化をお知らせした霧島山・新燃岳で3月1日、噴火が発生しました。3日時点でも噴火は継続しています。またこの噴火により、宮崎市内でも降灰が確認されています。火山性地震も継続して発生しており、新燃岳からは目が離せない状況が続きます。

## 西表島で震度5弱を観測する地震が発生

3月1日、22時すぎに西表島で震度5弱を観測する地震が発生しました。マグニチュードは5.6と速報されており、日本の場合、この規模の地震では被害が出る事はほとんどありませんが、今年に入って初めての震度5弱を観測した地震となりました(この地震の前の震度5弱は2017年10月6日の福島県沖の地震でした)。

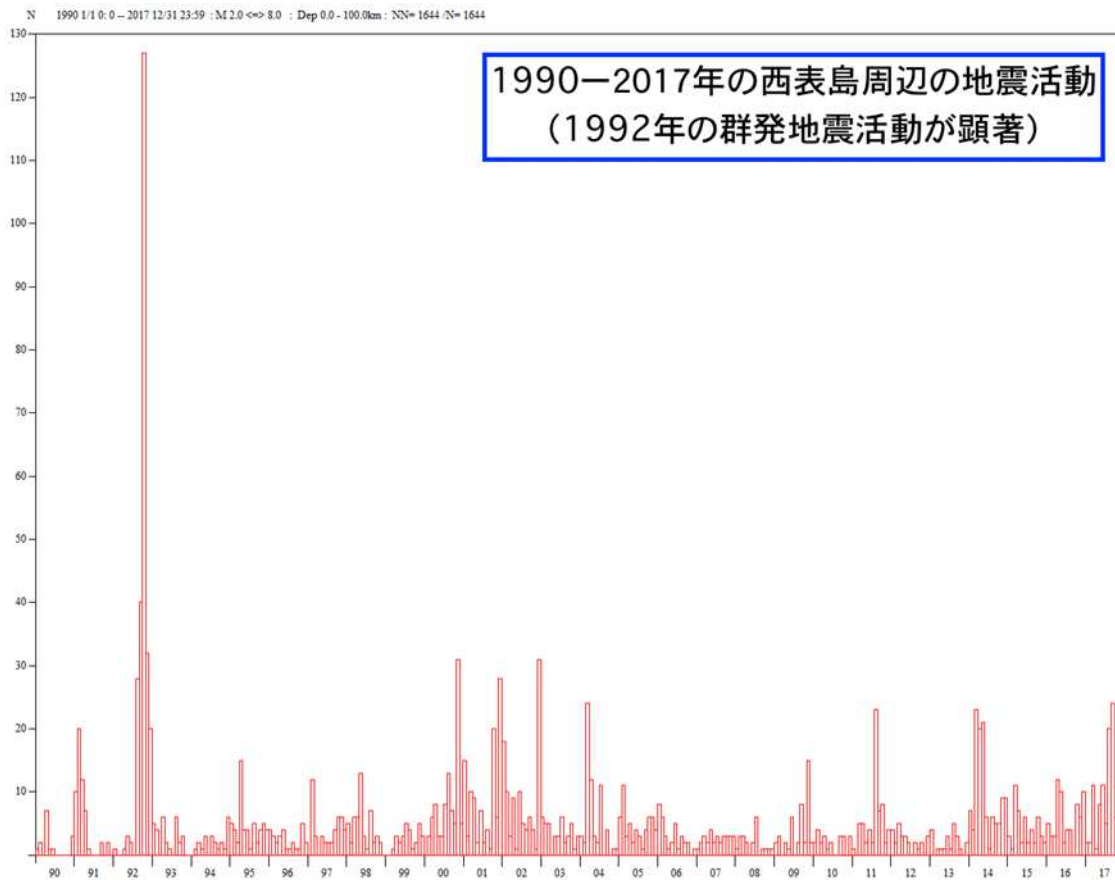
西表島の周辺では90年代から群発型地震が発生するようになっていました。特に1992年の群発地震活動は極めて激しいものでした。また3月1日の地震は過去40年に西表島周辺で発生した最大の地震でもありました。

下の図は1980年以降の西表島周辺で発生したマグニチュード2以上の地震を示しています。また3月1日に発生した地震を青い★で示してあります。北北西から南南東に伸びる地震の帯が存在するようにも思えます。今後、島の直下での活動もあるかもしれません。





次の図は1990年から2017年までの月別の地震発生数です。1992年の活動が非常に激しかった事がこの図からも見てとれます。



## 西表島・石垣島周辺の過去の地震活動

この地域での記録に残る最大の地震は石垣島で約30mの高さまで津波が遡上したとされる1771年の八重山地震です。この津波は当時の元号より「明和の大津波」と呼ばれるようになりました。2017年に公表された静岡大学を中心とした調査から、過去2000年の間に約600年間隔ではほぼ同規模の地震が4回発生したことを発見しました。

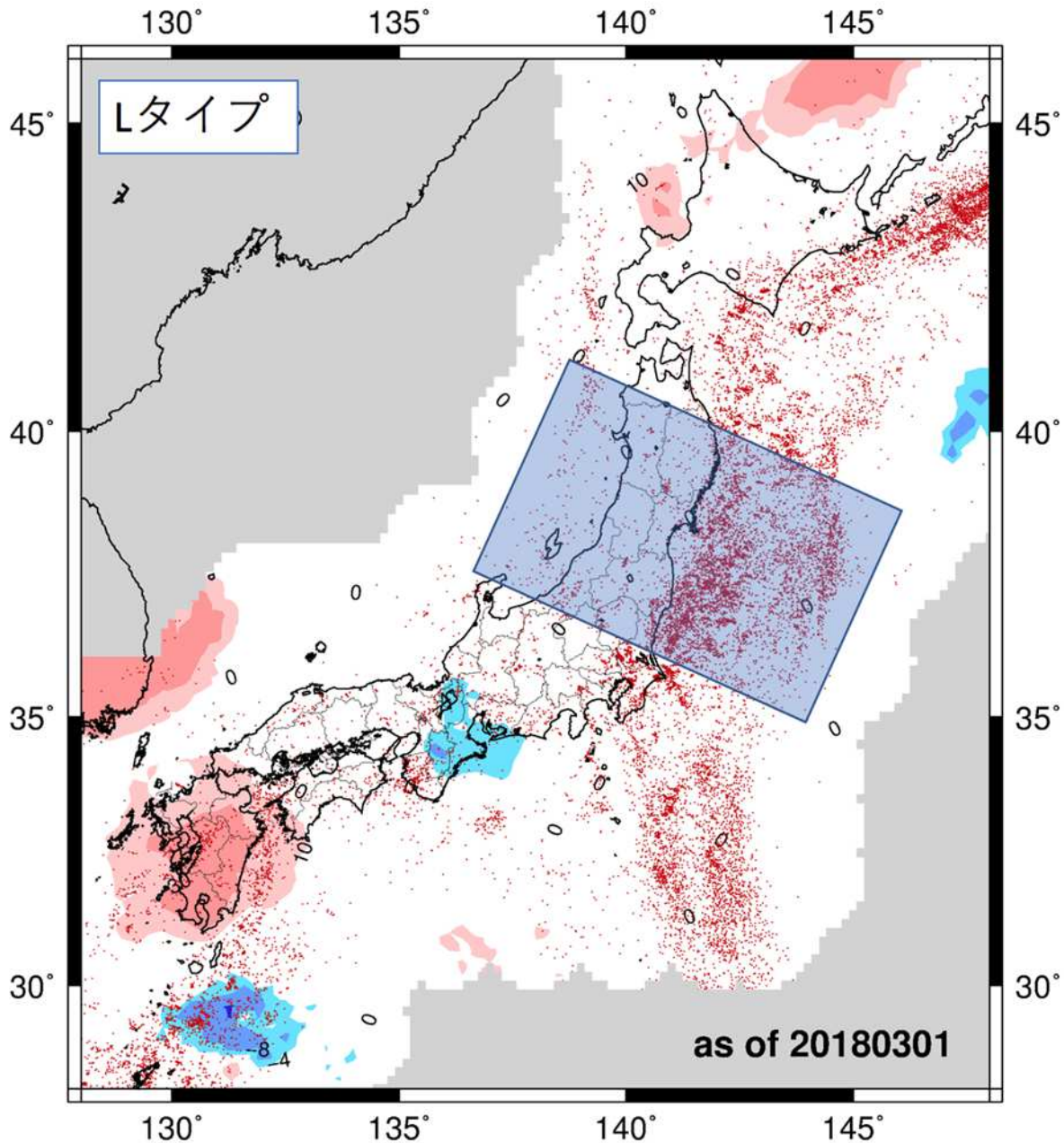
今後、DuMAではこれまで解析を行ってこなかった南西諸島から台湾にかけても地下天気図解析を行っていく所存です。

## 海域のM7クラスの地震をターゲットとした地下天気図®解析

1月29日のニュースレターに引き続き、海域の長期間（2000年以降の17年間）の地震データを用いた地下天気図解析です。この地下天気図における有効な解析対象範囲を明確にするために、東日本大震災の影響で、やや精度の劣る東北地方全域にハッチをかけさせて頂きました。東北沖につきましては、別途東北沖に特化した解析を行って情報提供を行ってまいります。



今回は L タイプのみをお示ししますが、基本的に異常が観測されている地域は同じ地域となっております。



過去17年間の地震データを使っているため、1ヶ月ほどでは、そのパターンはほとんど変化しておりません。一般に地下天気図では、異常が消えた直後から半年程度の間に対応する地震が発生する可能性が高い事が経験的に判明しています。現時点で海域で津波を伴うマグニチュード7を超える地震が発生する可能性はハッチをかけた東北沖を除き、小さいと考えられます。